

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立東与賀中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 『学び合い』、開発的生徒指導により、生徒が自発的に取り組む場を仕組むことで主体性を伸ばしてきた。将来、社会の中でわからないと言え、尋ねることができること、言いたいことが言えることなどが必要であることから、今後もそのような力を身に付けさせるようにしていく。 学校の中だけでなく、地域で子どもの活躍の場を増やし、地域の人が子どもの活躍を承認することで、子どもはもっとよく育つ。持続可能な学校、持続可能な地域を目指していきたい。 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、時間を意識し計画的に業務に取り組む姿勢はあるが、実際の業務量が多く、人手も不足しているため、時間外勤務の削減は難しかった。時間や業務内容について、子どもを中心に据えた上での精選を行う。

2 学校教育目標	「凜」とした元気・感動・温もりのある学校 ～ 夢実現に挑戦し努力する生徒の育成～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 『学び合い』の視点を取り入れた、確かな学力の育成 「考え、議論する」ことにより道徳性や豊かな心を育む 『学び合い』や開発的生徒指導を通して、主体性を育む
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「分かる授業」を目指した、指導方法・評価方法の工夫改善の推進	○先生は、私たちが分かりやすい授業を目指して工夫していると思う生徒85%以上 ○学校は、生徒が分かりやすい授業をめざし、学習内容や指導方法を工夫していると思う保護者80%以上	・校内研究において『学び合い』の研修と実践 ・教科・領域の授業改善、指導力向上を目指した外部講師招聘等を織り込んだ校内研究会の定期開催 ・一人1回以上の授業公開	A	・校内研究では、全職員に『学び合い』の研修を行った。さらに夏季の研修では、地元企業の講師を招き、理念の大切さを伝えてもらい、『学び合い』の考え方の共通項を学んだ。 ・前期は、各学年代表授業を2回行い、『学び合い』についての実践を行った。更に、11月には公開授業を行い、授業力を向上に向けて準備を進めている。	A	○【達成】先生は、私たちが分かりやすい授業を目指して工夫していると思う生徒95.7% ○【達成】学校は、生徒が分かりやすい授業をめざしていると思う保護者80.2% ・全職員が共通理解のもと、生徒の主体性を育む『学び合い』の授業改善や公開授業を実施したことで、生徒や保護者が肯定的であると考えられる。また、県内外からの複数の視察を受け入れたことで、生徒の自信につながったと言える。 ・生徒会が主体となって『学び合い』の授業改善に向けた課題分析や全校生徒へのプレゼンテーションにより、自分事として捉え行動する生徒が増えたため、肯定的な意見が多くなったと考えられる。 ・職員は『学び合い』に関して、ほぼ全員が県内外の学校へ視察や授業参観を行い、授業力の向上に努めた。	A	・生徒集会を見学した際、生徒が生徒に『学び合い』の成果や課題を発表していた。生徒一人一人が自分事として考える方法として有効である。 ・学力向上してほしい。全国、県の平均と比べて自分たちがどのような状況なのかを意識させるために、数値やグラフを生徒に提示することも必要。 ・放課後学習会等で、個別の支援学習が実施されていることは大変良い。今後も予算をつけてほしい。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業で自分のことや友だち、家族のことをじっくり考えることができていると思う生徒90%以上 ○道徳の授業や立憲式などを通して、心を育てる教育を行っていると思う保護者85%以上	・話し合う時間の設定 ・教員の指導力向上を図る、全学級での道徳授業実践の相互参観	B	・「私は、道徳の研究授業(授業参観を含む)を実施(協力)、道徳の指導力を充実・向上させている。」教員の割合：85%(9月)。 ・道徳では学年でローテーションで授業を行い、話し合う時間を設定することを共通理解した。学びの履歴を活用し、生徒が学びをフィードバックできるように工夫をした。	A	○【達成】道徳の授業でじっくり考えることができていると思う生徒95.1% ○【達成】道徳の授業などを通して、心を育てる教育を行っていると思う保護者92.3% ・生徒、保護者ともに約2.5%昨年度を上回っている。 ・道徳の授業において話し合い活動を設定したり、命の大切さを学ぶ教室や立憲式を実施したりする活動を通して、生徒の道徳的価値の育成につながったと考える。	A	・道徳の授業の中でいじめについて考えることが大切。年間計画の中で、計画的に位置づけて取り扱ってほしい。 ・学校での生徒の様子は大変落ち着いており、じっくりと考える雰囲気があるので、もっと子どもの心を揺さぶるような道徳の授業を仕組んで、心を耕してほしい。	道徳担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○私はいじめゼロをめざした取組を行っていると思う生徒100% ○学校は、いじめをなくし命を大切に取る取組を行っていると思う保護者85%以上 ○いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組を行っていると思う教員100%	・毎月の「いじめ・いのちを考える日」の取組と「生活アンケート」の実施 ・各種調査等によるきめ細かな生徒の実態把握 ・学年⇄生徒指導部の連携した組織的対応と、早急な対応による事案の解決	B	・「いじめ・いのちを考える日」の取組は、5月と9月で実施できなかった。 ・アンケートを実施し、各学年で早急に対応することができている。 ・アンケートの結果、「いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組を行っている」と思う教員は100%であった。 ・引き続き、毎月のアンケートと早期対応を心掛け、生徒・保護者に安心してもらえるようにする。	B	○【未達成】私はいじめゼロをめざした取組を行っていると思う生徒90.1% ○【達成】学校は、いじめをなくし命を大切に取る取組を行っていると思う保護者92.3% ○【達成】いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組を行っていると思う教員100% ・トラブル等が生じた時、職員間の連携、保護者との連携をとおり、子ども一人一人に応じた支援を丁寧に行ってきた。 ・課題として、子ども自身自身が主体的にいじめゼロを目指すような働きかけや、仕組み作りをすること考える。	B	・私はいじめゼロをめざした取組を行っていると思う生徒90.1%で未達成となっているが、9割は超えているので成果は大きい。今後の生徒たちの成長に期待を込めて評価を込めて。 ・職員研修も充実させて、未然防止、早期発見、早期対応をお願いしたい。	生徒指導主事
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」「安全に関する資質・能力の育成」	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒80%以上 ◎私は、毎日の生活で自分の夢や目標に向けて、行動することができていると思う生徒80%以上 ◎自分の子どもは、将来の夢や目標をもっていると思う保護者85%以上	・『学び合い』の授業や学校行事などにおいて、生徒が主体的に活動する場面を設け、全職員による開発的生徒指導を実践(生徒の出番と承認の場面の設定など) ・「特別な教科道徳」、「社会人」に学ぶ、「職場体験」、「先輩に学ぶ」の実施による、実社会に即した話を聞いたり、体験活動をしったりする機会を設定	B	・行事や学校の諸活動の中で、生徒の出番、役割を設定し、活動の後で全体の中で承認していくようにしている。 ・授業で主体的に動ける生徒が増えるように、評価規準を明確にしている。 ・キャリア教育を推進し、現在の勉強が将来に通じていることを話している。 ・高校進学に対して意識が低い生徒が多いので、学級の中に佐賀県内の高校を書いたものをおき、生徒がいつでも目を通せるようにしている。 ・Society5.0の実現へ向けて動画視聴や、説話をしている。	B	●【達成】先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う回答した生徒93.2% ●【未達成】将来の夢や目標を持っているについて肯定的な回答をした生徒69.3% ◎【未達成】毎日の生活で自分の夢や目標に向けて、行動することができていると思う生徒66.7%以上 ◎【未達成】自分の子どもに将来の夢や目標を持たせるような話をしている保護者63.7% ・校内では開発的生徒指導の実践として、職員が生徒の承認を積極的にしていることから、先生に認められていると感じる生徒が多いと言える。昨年度より6.3%上回っている。 ・生徒、保護者の両者において、昨年度より10%程度下回っていることが課題である。将来の夢や目標を持たせるための手立てとして、教育相談、面談等に合わせ、個に応じた目標設定や自己実現に向けた相談を行っている。	B	・「毎日の生活で自分の夢や目標に向けて、行動することができている」この問い自体が難しいので、検討の余地がある。 ・校内に各学期の目標は掲示してある中で、将来の夢や目標も掲示してはどうか。小学校6年生時「みんなの夢」(佐賀新聞)に掲載した夢を活用してもよい。 ・学校、保護者、地域が子どもたちの夢を応援していることを発信していきたい。	総合的な学習の時間
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・現状把握と対策の検討、働き方改革の周知のための健康管理委員会の複数回実施 ・定時退勤日の設定、実施 ・サーバーを活用した電子媒体での事務処理の実施 ・職員会議等の協議内容を精選し、ペーパーレスにして終了時間を意識した業務改善	B	・前年度の前期と比較すると、時間外勤務の時間と人数については、ほぼ同じで変化はなかった。効率よく仕事ができるように工夫している職員は80%。 ・水曜日定時退勤日として、17時00分退勤を目指した。夏季休業中以外の水曜日では2割程度達成することができた。 ・サーバーやTeams、れんらくんを活用した事務処理、会議のペーパーレスが定着してきた。	A	●4～12月時間外勤務45時間未満：71.8%。4～12月時間外勤務45時間以上～80時間未満：26.9%。4～12月時間外勤務80時間以上：1.3%。 ・部活動の休業日の週2日以上は100%。 ・昨年度より1～2%ほど改善がみられた。 ・職員会議の協議内容を精選し、ペーパーレスにして終了時間を意識した業務改善を行った。しかし、学校外の部活動等の役割や業務について、時間外や休日も求められることがあり、職員の負担感が見られる。	A	・先生方が動きたい学校となるようにして行ってほしい。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上したと思う教員80%以上	・特別支援に関する研修会の1回以上実施及び定例会議・研修時のプチ研の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	B	・職員研修では「障害のある子どもへの学校への適応について」研修を行い知識を深めた。支援体制の整備(巡回相談、専門家派遣)を継続して行い、授業の工夫やスキルアップを目指している。	B	○【未達成】特別支援に関する専門性が向上したと思う教員73.7%と未達成ではあるが、昨年度より7%上回っている。 ・昨年度より7%上回っている。 ・他機関と連携したケース会議、巡回相談での助言の共有、自立活動理論研修等を通して、職員の意識の向上につながったと考える。	B	・特別支援学級在籍の子どもたちが『学び合い』の授業に参加し、他の生徒と共に学び、互いに認め合っている雰囲気が出てほしい。 ・職員研修等も充実させていけるとよい。	特別支援コーディネーター

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○持続可能な開発目標を達成するための取組	○持続可能な開発目標を意識した教育活動の研究	○SDGsの視点の生かした各教科での授業実践 ○本校区の地理的特徴に関連する目標14の理念を踏まえた、教育活動の全教科・領域での展開・実施	・「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標4及び本校区の地理的特徴に関連する目標14の理念を踏まえた、教育活動の全教科・領域での展開・実施	B	・SLの時間を通して、東与賀の干潟について目標14と関連付けながら学んだ。 ・昨年と同様に、12月に大学と連携したワークショップを計画しており、各教科と関連付けながらSDGsに関連する取り組みを学ぶ。	A	・SGDs7-ワークショップ実施など大学との連携を深めSDGsの視点を反映した各教科の授業実践をすすめた。 ・生徒会活動でSDGsを視点とした活動を各専門部ごとに計画し、日々の活動において実践した。	A	・大学との連携、生徒会の主体的な活動など、独自の取り組みで子どもたちの意識向上につながっている、今後も継続してほしい。	研究主任
○魅力ある学校づくり	○行きたい学校、行かせたい学校づくり	○東与賀中学校へ入学してよかったと思う生徒80%以上 ○東与賀中学校へ自分の子どもを通学させて良かったと思う保護者80%以上	・上記全ての取組(再掲)	B	・私は東与賀中学校に動めてとても良かったと思う職員93% ・引き続き、『学び合い』、開発的生徒指導により、生徒の主体性を伸ばす教育を推進していき。	A	○【達成】東与賀中学校へ入学してよかったと思う生徒90.7% ○【達成】東与賀中学校へ自分の子どもを通学させてよかったと思う保護者89.0%	A	・『学び合い』と開発的生徒指導でさらに魅力ある学校をめざしてほしい。	教頭

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>総合評価A…未達成の項目はあるが、『学び合い』と開発的生徒指導による教育活動の成果がさらに定着してきており、職員集団も同じ目標で取り組むことで、より多くの生徒が安心して過ごすことができる学校になってきている。 ・昨年度に引き続き『学び合い』、開発的生徒指導により、生徒が自発的に取り組む場を仕組むことで主体性を伸ばしてきた。わからないことは、はずかしいことではない。それを乗り越えることが大事。よって、社会の中でわからないと言え、尋ねることができること、言いたいことが言えること、今後もこのような力を身に付けさせることが大事と考える。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については校時限、学校行事、部活動、会議等の工夫をし、職員が時間を意識し計画的に業務に取り組むようになった。しかし、実際の業務量が多く、時間外勤務の削減は難しかった。時間や業務内容について、子どもを中心に据えた上でのさらなる精選を行う。</p>
----------------	---